町家歴史館を構成する３つの施設

3館共通	開館時間	午前10時～午後5時（入館は4時30分まで）
	休館日	火曜日（ただし祝日の場合は翌日）、年末年始（12月29日～1月3日）

入館料	個人	20名以上の団体
鉄炮鍛冶屋敷	500円	400円
山口家住宅	200円	160円
清学院	100円	80円
[2館共通券] 鉄炮鍛冶屋敷 山口家住宅	600円	480円
[2館共通券] 鉄炮鍛冶屋敷 清学院	550円	440円
[2館共通券] 山口家住宅 清学院	250円	200円
[3館共通券] 鉄炮鍛冶屋敷 山口家住宅 清学院	700円	560円

鉄炮鍛冶屋敷
所在地：堺市堺区北旅籠町西１丁3-22

山口家住宅
所在地：堺市堺区錦之町東1丁2-31

清学院
所在地：堺市堺区北旅籠町西１丁3-13

堺の環濠エリアを巡ろう！

アクセス

鉄炮鍛冶屋敷　**清学院**

- 阪堺電気軌道阪堺線「高須神社」停留場より西へ約300メートル
- 南海本線「七道（しちどう）」駅より東へ約300メートル
- 南海バス「堺東駅前」から、16系統・17系統（北循環線）「堺駅西口」行き もしくは61系統（堺東住之江線）「住之江公園駅前」行きで、「綾の町電停前」停留所より北へ約350メートル

山口家住宅

- 阪堺電気軌道阪堺線「綾ノ町」停留場より南東へ約200メートル
- 南海電鉄高野線「堺東」駅、もしくは南海本線「堺」駅から南海バスで「大小路（おおしょうじ）」停留所、阪堺線に乗り換え「綾ノ町」停留場より南東へ約200メートル
- 南海バス「堺東駅前」から、16系統・17系統（北循環線）「堺駅西口」行き もしくは61系統（堺東住之江線）「住之江公園駅前」行きで、「綾の町電停前」停留所より南東へ約300メートル

※鉄炮鍛冶屋敷・清学院と山口家住宅との間の距離は約620メートルです。

※駐車場はありませんので公共交通機関をご利用ください。
なお、鉄炮鍛冶屋敷には、障がい者用駐車場（１台分）があります。

ホームページ：https://www.sakai-machiyamuseums.com/
指定管理者：株式会社パソナジョイナス　TEL/FAX：072-224-1155

堺市立 町家歴史館

鉄炮鍛冶屋敷

山口家住宅

清学院

鉄炮鍛冶屋敷（井上関右衛門家住宅）

堺市指定有形文化財

庭

全国で唯一残る江戸時代の鉄炮鍛冶の作業場兼住居です。鉄炮を組み立てる「仕上場」、商談を行う「みせの間」、鉄を鍛えて銃身をつくる「鍛冶場」等の空間から成ります。

屋敷内からは２万点を超える古文書等が発見され、関西大学と堺市との共同研究調査の結果、日本の鉄炮生産の歴史を書きかえる大きな成果となりました。

主屋・座敷棟は、屋根の高さの違いからも時代の異なる建物が連なっていることがわかります。その敷地は当初の表口６間から、鉄炮鍛冶としての地位が高まるにつれて、江戸後期に17間半まで拡張しました。敷地の奥には、道具蔵や俵倉、鍛冶場（資料を参考に新築）等が建ち並んでいます。

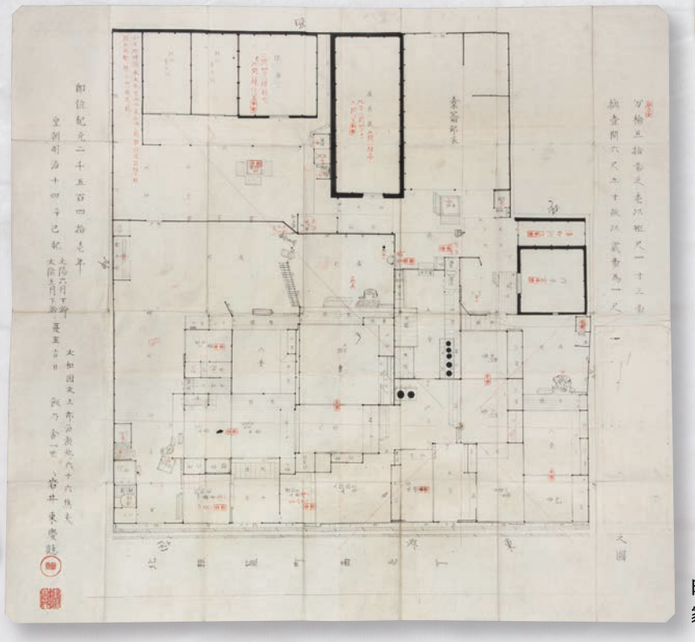
鉄炮ビジネスを物語る実物資料の展示や、「みせの間」や「鍛冶場」等の再現展示、鍛冶コンテンツ等をとおして、「本物のものづくり空間」を体感できます。

※「鉄炮」の「炮」の字については古墳時代から現代まで続く「鉄のものづくり」の技術の象徴として「火を起こして鉄を鍛える」イメージを持つ火扁の「鉄炮」の字を採用しています。なお、鉄炮鍛冶屋敷に伝わる江戸時代の古文書の大部分では、火縄銃を指す言葉として火扁の「鉄炮」が使われています。

通（かよい）＊

短筒図＊

火事羽織＊



明治14年（1881）の家相図＊

フイゴ＊

井上関右衛門壽次銘　火縄銃＊

＊井上家所蔵

重要文化財

山口家住宅

（上）土間　（下）西座敷

慶長20年（1615）の大坂の陣の戦火により堺が全焼した直後に建てられた、国内でも現存する数少ない江戸時代初期の町家のひとつです。土間は、大梁を架け和小屋を組み、民家らしい開放的な吹き抜け空間となっています。

当初はこの大きな土間と、土間に面した部屋で構成されていましたが、江戸後期にかけて、式台玄関や西土蔵［安永４年（1775）］、北土蔵［寛政12年（1800）］、茶室、奥座敷等が増築され、現在の間取りが完成しました。北側には樹齢約200年の大ハゼの木を中心とする庭があります。

伝統的な堺の町家暮らしを感じることができ、堺の伝統産業や季節のしつらいの展示も順次行っています。

山口家住宅　貸室利用方法

場所	利用時間	単位	利用料
主屋 1階	開館日の 午後6時から午後9時まで	1時間	15,940円

場所	利用時間	利用料		
		午前10時から 午前12時まで	午後1時から 午後5時まで	午前10時から 午後5時まで
西土蔵 1階	開館日の 午前10時から午後5時まで	1,030円	2,060円	3,090円
北土蔵 1階	開館日の 午前10時から午後5時まで	1,400円	2,790円	4,190円

※詳しくは裏面記載のホームページにてご確認ください。

登録有形文化財

清学院

元禄２年（1689）の『堺大絵図』に「山伏清学院」の名で見える修験道の道場。江戸後期から明治初期には「清光堂」という寺子屋が設けられ、北旅籠町で生まれ、仏典を求めて日本人で初めてヒマラヤ山脈を越えてチベットに入った河口慧海もここで学びました。河口慧海ゆかりの資料を中心に寺子屋教科書等の展示も行っています。

極小な敷地に不動堂、庫裏、門が凝縮して建てられ、都市部の修験道場として大変貴重です。

不動堂

河口 慧海
『西蔵旅行記』［博文館、1904］より転載

河口 慧海　Kawaguchi Ekai 1866 - 1945

河口慧海は慶応２年（1866）堺山伏町（現：堺区北旅籠町西３丁）に生まれました。

数え年６歳で寺子屋「清光堂」に学び、明治５年（1872）の学制公布後は県学第七区分校（後の錦西小学校）に入学しますが、12歳で家業の桶樽製造業に従事するため退学します。その後は、仕事の傍ら土屋鳳洲が主催する晩晴書院に通っていました。

明治21年には上京し、哲学館（東洋大学の前身）に通います。25歳の時に、得度し黄檗宗の僧侶となりますが、漢訳仏典の限界等を感じることとなり、明治30年厳重な鎖国体制下のチベットをめざします。

ネパールを経て明治33年ヒマラヤの峠を越えてチベット西部へ入り、翌年にはラサに日本人で初めて到達しました。

この第１回旅行は６年に及び、仏教についての研鑽と、チベットの風俗や生活習慣、風習など様々な見聞を深めます。

帰国後はその旅行談が新聞に掲載され、後には『西蔵旅行記』として刊行されました。

明治37年には再びチベットへ旅立ち11年もの間、インド、ネパール、チベットで過ごします。

帰国後の慧海は、チベット請来資料を駆使しながら多くの書物や記事を書き、かつ各地で講演をしながら仏教の正しい理解と普及に努めました。